

Harazone, Y., C. Yamada, T. Murakami and K. Kobayashi, 1993: Characteristics of ozone concentration and ozone flux over rice and soybean canopies Japan's Kanto Region, Proceedings of Inter. Symp. of Univ. of Osaka Prefecture on Global Amenity, 140-145.

Harazono, Y., A. Tsuchiya and C. Yamada, 1992: Meteorological measurement of CO<sub>2</sub> assimilation in a soybean field and examination for trace gases flux measurement, Proceedings of Inter. Symp. of Global Change (IGBP), 128-135.

## 1999年度日本気象学会奨励賞の受賞者決まる

**受賞者:** 須田卓夫 (秋田地方気象台)

**研究題目:** 客観的予報資料の検証と応用

**選定理由:** 須田会員は、1983年に秋田地方気象台に勤務の後、主に東北地方の地方気象台で現業勤務の傍ら、地方に特有なテーマについて研究・調査を進めてきた。その成果は気象庁研究時報や仙台管区気象研究会に数多く報告されている。

須田会員の研究内容は業務上の必要に応じて多岐にわたる。特に、気象庁が現場の予報作業を支援するために提供している予報ガイダンス資料の検証、補正方法の改善について、多くの調査を発表している。ガイダンスは、数値予報結果に基づき、客観的・具体的な予報値を担当者に提案するもので、予報の基礎資料である。須田会員は、東北各地の最高・最低気温、風向・風速、降雪の深さ、海上の波の高さ等様々なガイダンス要素について、その精度を検証している。更にガイダンスの精度が低下する条件を調べ、その補正法も提案している。そうした成果は予報作業の中で数値資料を修正する際に有益な情報として、予報精度の改善に役だっている。

こうした調査研究の成果は、気象災害の軽減や予報精度の向上に寄与するとともに、気象学的にも興味深い。よって、日本気象学会は須田卓夫会員に奨励賞を贈るものである。

### 参 考 文 献

須田卓夫, 濱田啓次, 1996: 95年12月~96年2月の降雪量情報の検証, 平成8年度仙台管区調査研究会資料, 93~94.

須田卓夫, 1996: 山形のRSM最高・最低気温ガイダンスの特性, 研究時報, 48別冊, 99~100.

須田卓夫, 一井知子, 1997a: 気温ガイダンスの誤差の大きい日, 平成9年度仙台管区調査研究会資料, 87~88.

須田卓夫, 1997: 酒田沖と温海のデータから見た沿岸波浪モデルの特性, 平成9年度仙台管区調査研究会資料, 93~94.

須田卓夫, 一井知子, 1997b: 山形・米沢のRSM最高・最低気温ガイダンスの検証, 平成9年度仙台管区調査研究会資料, 107~108.

須田卓夫, 高階直子, 1998: 秋田と横手における風ガイダンスの統計的検証, 平成10年度仙台管区調査研究会資料, 39~40.

須田卓夫, 1998: 風ガイダンスの時系列的検証, 平成10年度仙台管区調査研究会資料, 41~42.

**受賞者:** 松浦健次 (宮崎地方気象台)

**研究題目:** 九州南東部の沿岸前線の解析

**選定理由:** 松浦会員は、宮崎地方気象台とその宮崎空港出張所、種子島測候所、大分地方気象台で天気予報などの業務に従事するかたわら、1992年以降7年間にわたって、九州南東部沿岸に局地的に現れる前線(沿岸前線)の研究を続け、多くの事例解析を福岡管区気象研究会で発表してきた。そして、地上の風や相当温位の解析に基き、沿岸前線は、九州南東部に滞留した寒気と南東海上から吹き込む暖気の間形成されていることを示した。また、高層観測データの時系列を時間-空間変換する手法を用いて沿岸前線の立体構造も調べ、寒気の厚さが500m程度であることや、沿岸前線の上空に温暖前線が重なって複雑な構造をしていることを明らかにした。こうした成果は飛行場周辺における視程等の予報精度の向上に生かされている。松浦会員はまた、九州南部の種子島における強雨の特徴も調べており、その成果をまとめたワークシートは種子島測候所が行う強雨予報のために活用されている。

このように松浦会員は、多忙な気象業務の合間を縫って、沿岸前線を始めとするメソスケールの気象

現象の解析に積極的に取り組み、着実に成果を挙げた。よって、日本気象学会は松浦健次会員に奨励賞を贈るものである。

### 参 考 文 献

- 松浦健次, 久保尚武, 山内一郎, 落水敏秀, 1992: 沿岸前線におけるメソ天気系概念モデル, 福岡管区気象研究会誌, (53), 96~97.  
 松浦健次, 竹内憲一郎, 久毛秀光, 山内一郎, 1993a: 沿岸前線のメソ天気概念系モデル(その2), 福岡管区気象研究会誌, (54), 86~87.  
 松浦健次, 竹内憲一郎, 久毛秀光, 山内一郎, 1993b: 沿

岸前線のメソ天気系概念モデル(その3), 福岡管区気象研究会誌, (54), 88~89.

松浦健次, 1995: 梅雨前線の北上に伴って発現する短時間強雨のための監視用ワークシート, 福岡管区気象研究会誌, (56), 128~129.

松浦健次, 立石晃彦, 1996: テイパリングクラウドによる大雨機構, 日本気象学会九州支部講演会要旨集, (17), 29~32.

松浦健次, 1999: 東寄りの下層風による宮崎県の悪天と沿岸前線の関連について, 福岡管区気象研究会誌, (59), 164~165.

## ==== 支部だより =====

### 「東北支部講演会」および「ヤマセシンポジウム」のお知らせ

#### 1. 平成11年度支部講演会のお知らせと講演募集

- 主 催:** 日本気象学会東北支部  
**開催日時:** 平成11年10月20日(水) 13時~17時  
**会 場:** 仙台第3合同庁舎(仙台管区气象台), 2階大会議室  
 仙台市宮城野区五輪1-3-15  
**開催要領:** 通常の研究発表の形式で行う予定。発表時間は質疑応答を入れて20分程度。翌日に東北支部等の共催によるヤマセシンポジウムが開催されますが、このシンポジウムは招待講演のみであることなどから、今回は、同シンポジウムに参加する関係学会の方の研究発表も受け付けます。

**参加費:** 無料

**講演申込方法:** 題目, 発表者名(連名の場合は講演者に○印を付ける), 所属機関名, 代表者の連絡先(住所, TEL, FAX, e-mail), 200字以内の要旨, OHP・プロジェクターの使用希望, を郵便, FAX または e-mail でお送り下さい。なお, e-mail による申込に対しては1週間以内に返信メールを差し上げます。これが届かない場合は, 通信エラーによる不着の可能性がありますので事務局に照会下さい。

**講演申込先:** 日本気象学会東北支部事務局

〒983-0842

仙台市宮城野区五輪1-3-15

仙台第3合同庁舎内, 仙台管区气象台技術部気候・調査課気付

TEL: 022-297-8160

FAX: 022-291-8110

e-mail:

akira-nagasawa@met.kishou.go.jp

**講演申込締切り:** 1999年9月10日(金)

**予稿集原稿締切り:** 1999年9月24日(金) 予稿集原稿はA4判2ページ以内, 原稿をそのままオフセット印刷します。詳細は事務局にお問い合わせ下さい。

#### 2. シンポジウム「ヤマセ研究の最前線」開催のお知らせ

深刻な冷害をもたらした1993年夏のヤマセをあげるまでもなく, ヤマセは東北地方に暮らす人々の生活, 産業に様々な影響を及ぼす現象です。1994年8月に「ヤマセシンポジウムー「'93年ヤマセ」とその周辺」が開催されてから5年経ちました。そこで, ヤマセの機構解明を目指す研究者や対策に関わる行政機関の担当者らが一堂に会し, ヤマセ研究の最新の知見について紹介し, その対策について意見交換するシンポジウムを企画しました。ヤマセを大気-海洋系の事象として